



なら だいぶつ なに
奈良の大仏は何でできているの

どう きん すず すいぎん
銅や金、錫や水銀など

なら だいぶつ たか やく ぞう おも すわ れんざ おも
奈良の大仏は、高さが約15メートル、像の重さが250トン、座っている蓮座の重さ
が130トンもある世界一大きな金銅像で、約1200年前の天平年間に、9年間もの年
げつ つく
月をかけて作られました。

この像を作るためには、いろいろなものが使われましたが、おもなものをあげると、銅
440トン、金40キログラム、そのほか錫、水銀、精錬用の炭などですが、銅は輸入し
た銅銭をつぶして使いましたがとても足りず、日本でとれる銅もまぜて、やっとまにあわ
せました。

やく まんにん さぎょう
約200万人が作業にたずさわった

これだけの材料を運んだり、銅をとくして大仏の形を作るのには、大変な苦勞が重なり
ました。日本各地から木材を運んだり、建築にかかわった人だけで5万人、全体で約20
0万人の人手がかかったほど、大変な作業でした。（監修・保岡 孝之）

